

令和5年度

第3学年学習案内

学校の教育目標

1 自ら学ぶ生徒 2 人を尊ぶ生徒 3 自ら鍛える生徒



寄居町立寄居中学校

3年 組 番 氏名

目 次(3年)

寄居中の学習案内に寄せて	
学習案内とは・授業の概要	
年間行事計画	
国語	
社会	
数学	
理科	
音楽	
美術	
保健体育	
技術・家庭（技術分野）	
技術・家庭（家庭分野）	
英語	
評価・評定について	

寄居中の学習案内に寄せて

校長 岡田久志

学校における教育は、国が定めた「学習指導要領」に沿って行われています。これには、次のことがわかりやすく書かれています。

- ・どの学年で
- ・それぞれの教科などで
- ・どんな内容のことを
- ・何時間学習するか

日本の小・中学生がどこに住んでいても同じ内容を学習し、教育における機会均等を確保し、水準の維持を目的としています。この学習指導要領は、平成18年に改訂された教育基本法に基づき、次の方針により構成されています。

- ①教育基本法の改訂等で明確になった教育理念を踏まえ「生きる力」を育成すること。
- ②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。
- ③道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

日本の学校は、学習指導要領に基づいて教育課程（教育計画）が編成されます。平成29年3月に、総授業時数1,015時間は変わらないものの「特別の教科である道徳の授業時数」35時間が明記された次なる学習指導要領が告示されました。今年度は中学校の新学習指導要領の全面実施から3年目を迎え、その着実な実施が求められる中、これまでの学校研究の取組を礎に主体的・対話的で深い学びの実現に迫る授業づくりに取り組んでまいります。

さらに、第3期埼玉県教育振興基本計画（2019年度から2023年度まで）の基本理念「豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育」（誰もが参画しうる生涯を通じた多様な学びを実現し、自身の人生や社会の未来を切り拓く力を育成する）及び「令和5年度寄居町教育行政重点施策」により教育のあり方の方向性を見定め、子供たち生きる力の育成に向けた教育を推進する必要があります。

そこで、「夢と心をはぐくみ 未来を拓く寄居の教育」の基本理念のもと「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育を実施してまいります。寄居中学校では、改訂学習指導要領、埼玉教育の振興に関する大綱、令和5年度寄居町教育行政重点施策の趣旨を受け、年間の指導計画を立て、よりわかりやすく、より楽しく、深く学べる授業づくりに取り組んでまいります。特に、毎時間の授業の目標（ねらい）を明確にし、目標を達成するための学習課題を明示してまいります。そして仲間と学び合ったり、振り返り活動を重視した授業を積み重ねたりしていくことで、学力向上を図ってまいります。

この「学習案内」によって、各教科で学習する予定の時間、内容、そして評価の観点などをあらかじめお知らせしますので参考にしてください。そして、是非ともただ単に知識のみを習得するだけにとどまらず、生徒の皆さん自身が学年や学級の友達と活発に意見交換をしたり、協働して課題を発見し、解決したりするなどの「主体的・対話的で深い学び」を実現するための参考にさせていただきたいと思います。その結果、思考力、判断力、表現力等は鍛えられ、必ず学力は向上していきます。これこそが、まだ誰も正解を知らない難しい問いに向き合って解決していく力が求められる時代の到来に対応できるものと考えます。是非ご活用いただきますようお願いいたします。

【学習案内（シラバス）とは】

学習案内とは、生徒が寄居中学校で受ける授業、評価などについて、わかりやすく説明した授業計画のことをいいます。

寄居中学校の学習案内（シラバス）は、各教科ともおおむね次のように構成されています。

- 1 学習のねらい（目標）
- 2 学習の心構え
- 3 授業計画（学習内容と学習のねらい）
- 4 評価（今年度は、巻末にまとめて掲載してあります）



寄居中学校の教育活動にご理解いただき、お子様の学習活動について、ご理解支援いただけると幸いです。

【授業の概要】

寄居中学校は、3学期制です。

定期テストは、1学期（中間テスト、期末テスト）

2学期（中間テスト、期末テスト）

3学期（期末テスト）

の年5回になります。

保健体育と数学、1，3年の英語ではティームティーチングや少人数による指導を、特別の教科 道徳 ではローテーション授業を行うなど工夫した授業を行っています。

（１）寄居中学校の授業（教科等配当時間数（週時間））

＜第1学年週時数＞

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計	
													週計	全体計
時間配当	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015	
	4	3	3	4	1.3	1.3	3	2	4	1	1	1.4	29	1015

＜第2学年週時数＞

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計	
													週計	全体計
時間配当	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015	
	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29	1015

＜第3学年週時数＞

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計	
													週計	全体計
時間配当	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015	
	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29	1015

※ 1 年の総合的な学習の時間、音楽、美術における 3 5 週の割り振りは、以下の通り

	A 週（10 週）	B 週（15 週）	C 週（10 週）
総合	10（週 1 時間）	30（週 2 時間）	10（週 1 時間）
音楽	20（週 2 時間）	15（週 1 時間）	10（週 1 時間）
美術	10（週 1 時間）	15（週 1 時間）	20（週 2 時間）

※A.C 週に、音楽・美術き合わせの授業を 1 時間設定する。

（２）総合的な学習の時間について

寄居中学校の総合的な学習の時間は 3 年間を見通した学習となっています。

学校テーマ『ふるさと寄居 総合学習』

学年	学 習 内 容	時数	担当
1 年	地域の中で（i n） 地域の中で、自ら疑問や課題を発見し解決する活動を通して、調べ方や学び方の基本的な資質や能力及び人間関係形成力等を育てる。	5 0	1 年職員
2 年	地域を通して（through） 地域の職場体験や上級学校訪問を通して自己を見つめる能力や将来を考える資質を育てる。	7 0	2 年職員
3 年	地域のために（f o r） 1，2 年生での学習を生かし、自己の生き方を見つめさせ、地域のために創造的に行動できる能力や態度を育てる。	7 0	3 年職員

（３）特別の教科 道徳 について

教科化された道徳では、「道徳の教科書」を使い授業を行っていきます。

＜各学年の学習内容＞

学年	学 習 内 容	担当
1 年	・ 望ましい生活習慣、正しい判断力、目標に向かって最後までやり抜く態度。 ・ 相手の立場を理解し、思いやりの心を持って接する態度。 ・ 自己の役割を自覚し、協力しあって集団の向上に努める態度。	1 年職員
2 年	・ 自主・自律の精神を重んじ、他者の立場を理解しながら、個性の伸長を図る態度。 ・ 互いに認め合い、相手の立場に立って考えられ、行動できる態度。 ・ 学校の一員としての自覚を高め、協力して学びの場にふさわしい学級・学校の環境作りを行う態度。	2 年職員
3 年	・ 個性を生かし強い意志を持って創造的に人生を切り開く態度。 ・ 命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、思いやりの心を持って信頼しあえる人間関係を築ける態度。 ・ 豊かで健全な人間関係を築き、よりよい秩序と規律のある社会の実現を目指す態度。	3 年職員

(保護者・生徒用)
寄居町立寄居中学校

令和 5 年度年間行事計画 No1

2023年4月10日 現在

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜
1	土	1	月	1	木	1	土	1	火	1	金
より・E春塾（4月28日まで）		ネットマナー講座（1，2，3年）		耳鼻科検診13:30～		学総代表決定戦		行事		2学期始業式	
2	日	2	火	2	金	2	日	2	水	2	土
		全校朝会 体育祭学年練習 体育祭係別会議		中間テスト		学総代表決定戦予備日					
3	月	3	水	3	土	3	月	3	木	3	日
		憲法記念日								第4回北辰テスト（3年）	
4	火	4	木	4	日	4	火	4	金	4	月
		みどりの日				期末テスト				給食開始 中三実力テスト① B日課 生徒会役員選挙公示日 立候補者受付期間 （9月6日まで）	
5	水	5	金	5	月	5	水	5	土	5	火
部活動新顧問紹介		こどもの日		中間テスト		期末テスト				身体測定（1年）避難訓練②	
6	木	6	土	6	火	6	木	6	日	6	水
				生徒朝会（保健委員会）尿検査2次予備日		PTA交通安全指導 生徒会の日 期末テスト 第1回学校保健委員会				身体測定（2年）	
7	金	7	日	7	水	7	金	7	月	7	木
新3年準備登校				尿検査2次予備日		3年進路説明会				PTA交通安全指導 身体測定（3年） 生徒会の日 3年生性教育講演会 大里地区中学校英語弁論大会	
8	土	8	月	8	木	8	土	8	火	8	金
		歯科健診（全学年）8:50~12:40		PTA交通安全指導 生徒会の日						生徒会選挙立候補者説明会	
9	日	9	火	9	金	9	日	9	水	9	土
										第1回資源回収	
10	月	10	水	10	土	10	月	10	木	10	日
第35回入学式(午前) 始業式(午後) 時間割A週 部活なし		食育の日 給食なし 弁当持参 体育祭全体 練習								發明創意工夫展（一般公開）	
11	火	11	木	11	日	11	火	11	金	11	月
給食なし（3時間授業） 部活なし		体育祭予行（1,2） PTA交通安全指導 生徒会の日						山の日 サマーサマリーフレッシュウィーク （8月16日まで）		選挙期間開始（10月13日まで）	
12	水	12	金	12	月	12	水	12	土	12	火
給食開始 身体測定（全学年） PTA新旧理事会 完全下校18：00に移行		体育祭準備（5,6） 埼玉県学力・学習状況調査（CBT）		職員研修⑥		2年租税教室				生徒朝会（生徒会）	
13	木	13	土	13	火	13	木	13	日	13	水
新入生を迎える会(6) 部活動見学① 部活あり		第35回体育祭		全校朝会		期末短縮①(5) 支援担当訪問				音楽会実行委員会	
14	金	14	日	14	水	14	金	14	月	14	木
eライブラリ・スカイメニュー年次更新および タブレット保管場所入れ替え(6) 生徒会 の日①(委員長等選出・活動計画) 部活なし				生徒総会リハーサル 通信陸上県大会		期末短縮②（4）		日直を置かない日		眼科検診	
15	土	15	月	15	木	15	土	15	火	15	金
		振替休業日（5月13日）		生徒総会（5,6） 通信陸上県大会				日直を置かない日			
16	日	16	火	16	金	16	日	16	水	16	土
		体育祭予備日		教育実習終了		第3回北辰テスト（3年生）		日直を置かない日			
17	月	17	水	17	土	17	月	17	木	17	日
部活動見学② 避難訓練① 尿検査1次		部活動保護者会（全体・各部）				海の日					
18	火	18	木	18	日	18	火	18	金	18	月
全国学力学習状況調査（国、数、英） 尿検査1次 仮入部① 内科検診1年生 13：20～		通信陸上 ふれあいデー		第2回北辰テスト（3年）		給食終了 期末短縮③（4）				敬老の日	
19	水	19	金	19	月	19	水	19	土	19	火
仮入部②		通信陸上		学総（硬式テニス）		期末短縮④（3）				学年朝会	
20	木	20	土	20	火	20	木	20	日	20	水
ふれあいデー		通信陸上予備日 町P総会・懇親会		学年朝会 学総予備日（硬式テニス）		終業式 部活なし ふれあいデー				新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区 予選会（陸上）	
21	金	21	日	21	水	21	金	21	月	21	木
内科検診2年13：20～ 仮入部③3年全 学調英語「話すこと オンライン」試験日 全学調質問紙（オンライン）				ふれあいデー		夏季休業日 3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）				新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区 予選会（陸上） 予備日 ふれあいデー	
22	土	22	月	22	木	22	土	22	火	22	金
				学校総合体育大会大里・深谷地区予選会中心日 給食なし		学総陸上県大会					
23	日	23	火	23	金	23	日	23	水	23	土
		生徒朝会（生徒会）貧血検査14:00～ 尿検査2次		学校総合体育大会大里・深谷地区予選会中心日 給食なし		学総陸上県大会				秋分の日	
24	月	24	水	24	土	24	月	24	木	24	日
学校運営協議会①（寄居小） 尿検査予備日		修学旅行事前指導 尿検査2次		学校総合体育大会大里・深谷地区予選会中心日		3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）		寄居町・深谷市中学生英語弁論大会			
25	火	25	木	25	日	25	火	25	金	25	月
生徒朝会①（体育委員会）内科検診3生13：20～ 仮入部④ 尿検査予備日		3年修学旅行（京都・奈良）		学校総合体育大会予備日		3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）				学年会	
26	水	26	金	26	月	26	水	26	土	26	火
交通安全教室(13:45~15:35・5限全校6限1年) 1年本入部		3年修学旅行（京都・奈良）		職員会議⑥		3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）					
27	木	27	土	27	火	27	木	27	日	27	水
心電図検査（13:30） 部活なし PTA交通安全指導		3年修学旅行（京都・奈良）		学総（水泳）学校運営協議会②（桜沢小）3校合同活動①（あいさつ・花植え）		3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）					
28	金	28	日	28	水	28	金	28	月	28	木
授業参観（5校時）・学級懇談 P T A 総会 3年生修学旅行説明会 部活なし				学校総合体育大会（陸上）		3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）				新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区 予選会中心日 給食なし	
29	土	29	月	29	木	29	土	29	火	29	金
昭和の日		3年振替休業日 教育実習開始		学校総合体育大会（陸上）予備日						新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区 予選会中心日 給食なし	
30	日	30	火	30	金	30	日	30	水	30	土
第1回北辰テスト（3年）		学年朝会		学校総合体育大会（陸上）予備日						新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区 予選会中心日	
		31	水			31	月	31	木		
						3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）					
15日		20日		22日		13日		0日		20日	

(保護者・生徒用)

寄居町立寄居中学校

令和 5 年度年間行事計画 No2

2023年4月10日 現在

10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	日	第5回北辰テスト(3年) 新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区予選会予備日	1	水	中三実力テスト③ 三者面談② 完全下校 16:45に移行	1	金		1	水	PTA交通安全指導 生徒会の日 1年生性教育講演会
2	月	全校朝会 最終下校時刻 17:15に変更	2	木	三者面談③ PTA交通安全指導	2	土		2	金	1, 2年授業参観・学級懇談
3	火	中三実力テスト②	3	金	文化の日	3	日	第7回北辰テスト	3	土	
4	水	小学校親善運動会 新人戦(硬式テニス)	4	土	駅伝県大会	4	月	3年素点交換 全校朝会(人権)後期 人権週間 職員会議 生徒朝会(人権)	4	日	
5	木	小学校親善運動会予備日 PTA交通安全指導 新人戦(硬式テニス) 予備日	5	日	第6回北辰テスト(3年)	5	火		5	月	3年学年末テスト 学年会
6	金	新人戦陸上県大会代表者会議	6	月	三者面談④	6	水	素点交換	6	火	3年学年末テスト
7	土	新人戦代表決定戦	7	火	全校朝会 三者面談⑤	7	木	PTA交通安全指導 薬物乱用防止教室	7	水	3年学年末テスト 県公立高校出願日(郵送)
8	日	新人戦代表決定戦予備日	8	水	三者面談⑥	8	金	第2回調査書等作成委員会 資源回収事前指導	8	木	開校記念日 県公立高校出願日(持参)
9	月	スポーツの日	9	木	三者面談⑦	9	土	第2回資源回収	9	金	県公立高校出願日(持参)
10	火	全校朝会 教育実習開始 中間テスト(2教科)	10	金	給食なし 食育の日(家庭での食育の日)	10	日		10	土	
11	水	陸上部駅伝選手内科検診 13:20~ 中間テスト(3教科) 立会演説会リハーサル	11	土		11	月		11	日	建国記念日
12	木	新人戦陸上県大会	12	日		12	火		12	月	振替休日
13	金	新人戦陸上県大会	13	月		13	水		13	火	全校朝会
14	土		14	火	県民の日	14	木	生徒会の日 ふれあいデー	14	水	県公立高校志願先変更日
15	日		15	水		15	金	新入生説明会(5) 部活動見学(6)	15	木	県公立高校志願先変更日 完全下校 5:30に移行
16	月	学年会 立会演説会・選挙	16	木	埼玉県小中学校音楽会北部・東地区大会 ふれあいデー	16	土		16	金	
17	火	選挙結果発表 大里地区駅伝競走大会	17	金		17	日		17	土	
18	水	駅伝予備日	18	土		18	月	職員研修(4)	18	日	
19	木	素点交換 音楽会準備 ふれあいデー	19	日		19	火	期末短縮(4)	19	月	1, 2年期末テスト
20	金	校内音楽会	20	月		20	水	期末短縮(4) 給食終了	20	火	1, 2年期末テスト 県公立入試事前指導
21	土		21	火	生徒朝会(図書委員会)	21	木	期末短縮(3)	21	水	1, 2年期末テスト 県公立高校学力検査
22	日		22	水		22	金	2学期終業式	22	木	県公立高校実技検査および面接 ふれあいデー
23	月		23	木	勤労感謝の日	23	土		23	金	天皇誕生日
24	火	生徒朝会(任命式) 3校合同活動②(あいさつ・花植え)	24	金		24	日		24	土	
25	水	寄居町小中音楽会	25	土		25	月	私立高調査書配付	25	日	
26	木	生徒会の日	26	日		26	火		26	月	職員会議
27	金	教育実習終了	27	月	1, 2, 3年期末テスト(実技4科)	27	水		27	火	1, 2年修了式 準備企画委員会(午後)
28	土		28	火	1, 2, 3年期末テスト(3教科)	28	木		28	水	
29	日		29	水	1, 2, 3年期末テスト(2教科)	29	金	休日	29	木	学校運営協議会④(寄居中)
30	月	職員会議	30	木	2年生性教育講演会 学校運営協議会③(用土小) 生徒会の日	30	土		30	火	全校朝会
31	火	学年朝会 三者面談①				31	日		31	水	
21日			19日			16日			18日		1, 2年 17日 3年 11日

国語（３年）

担当

1 学習のねらい

- (1) 言葉がもつ価値に気づき、言語感覚を豊かにし、国語を尊重し、国語能力の向上を図る。
- (2) 自分の考えを豊かにしたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりできるようになる。
- (3) 自分の考えを豊かにしたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書くことができるようになる。
- (4) 目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりできる。
- (5) 社会生活に必要な音声、語句、語彙、文法、漢字などについて理解し、適切に身につける。書写では、文字を正しく整えて速く書くことができるようになる。

2 学習への心構え

《約束》

- ① 復習をきちんとする。
- ② 授業の始まる前に授業の準備をし、チャイム着席を守る。
- ③ 発表は積極的にする。
- ④ 提出物は、丁寧に仕上げ必ず期限までに提出をする。
- ⑤ 授業では受け身にならず、課題に意欲的に取り組む。
- ⑥ 忘れ物は絶対にしない。
- ⑦ 発表者に体を向け、発表者の意見などをよく聴く。
- ⑧ ポイントを押さえ、工夫をしたわかりやすいノートをつくる。
- ⑨ ワークプリントはファイルに保管・整理をする。

《おすすめ事項》

- 話を聞きながら、メモをとる。
- 自分の考えを大切に、自信をもって発表をする。
- 他人の意見を尊重する。
- 分からないことがあったら、必ず質問する。（休み時間や放課後など）
- 様々なジャンルの本をたくさん読む。
- 新聞も積極的に読む。
- 辞書をたくさん引く。

3 学習教材

国語では、次の7つの教材を使います。

- (1) 教科書
- (2) 国語ワーク・文法ワーク
問題集です。宿題にするときもありますが、復習用なのでどんどん家で進めてください。 ※『国語ワーク』は定期テスト後に提出してもらいます。
- (3) ワークシート
先生がつくる授業プリントです。学習の手引きなどが書いてあります。
- (4) 国語便覧（置いていってよい）
- (5) 国語辞典（置いていってよい）
- (6) 単元テスト
どのくらい理解できたか確認する「確認テストのプリント」です。
- (7) ノート A4A罫（学校でまとめて注文します。）

4 評価計画と方法

(1) 観点別評価のつけ方

観 点	A B C の 基 準
知識及び技能	A：言葉の特徴や使いかたに関する学習課題、情報の扱いかたに関する課題等、言語文化に関する課題の評価平均がA○である。定期テストでの言語事項を試す問題・漢字テスト等の正答率が約90％以上である。 C：言葉の特徴や使いかたに関する学習課題、情報の扱いかたに関する課題等、言語文化に関する課題の評価平均がBに達していない。定期テストでの言語事項を試す問題・漢字テスト等の正答率が約40％未満である。
思考力、判断力、表現力等	A：話す・聞くについての学習課題、書くについての学習課題、読むについての学習課題の評価平均がA○である。定期テスト等の「聞き取りテスト」「作文テスト」の問題の正答率が約90％以上である。 C：話す・聞くについての学習課題、書くについての学習課題、読むについての学習課題の評価平均がBに達していない。定期テスト等の「聞き取りテスト」「作文テスト」の問題の正答率が約40％未満である。
学びに向かう力、人間性等	A：国語に対する興味・関心が高く、意欲的、主体的な態度で授業に取り組んでいる。全ての課題の平均がA以上。 C：国語に対する興味・関心が低く、意欲がない。学習課題・宿題等を全く、またはほとんど提出していない。

(2) 各観点の評価項目と評価の方法

観 点	評 価 項 目	評 価 の 方 法
知識及び技能	○音声、語句、語彙、文法、漢字、情報の扱いかた、古典の知識等、社会生活に必要な国語について理解し身につける。書写では、楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解し、字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮し、読みやすく速く書く。	◇指導過程では、教師による観察 ◇・定期テスト（言語に関する問題） ・確認テスト ・書写（硬筆・書きぞめ） ◇指導後では、自己評価・相互評価等
思考力、判断力、表現力等	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、筋道を立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりして表現する。	◇指導過程では、教師による観察 ◇・聞き取りテスト ・話し合い活動 ・発表（スピーチ、プレゼンなど） ・定期テスト（表現問題・読む力） ・課題作文テスト ・単元テスト ・作文 ・作品 ・ノート ・ワークシート ◇指導後では、自己評価・相互評価等
学びに向かう力、人間性等	○言葉がもつ価値を認識するとともに、話し合ったり工夫して書いたり、読書したりなど、進んで学びに向けた粘り強い取組を行い、その取組のなかで、自らの学習を調整しようとする。	◇指導過程では、教師による観察 ・チェックリスト ・応答・態度 ◇提出物では、 ・ノート ・作品 ・ワーク ・ワークシート ・振り返りシート ・授業内容の下調べ（語句調べ等） ◇指導後では、自己評価・相互評価等

5 本年度、特に力を入れて指導すること

学力検査の結果、また、本年度の学校研究課題から、国語の授業において以下のことを特に力を入れて指導します。

(1) 自分の立場や伝えたいことをはっきりとさせ、説得力のある文章を書く力や話す力を養います。

* 書く・話す手立てを示し、書く・話す機会を増やし、書くことや話すことに自信が持てるように指導します。

(2) 書き手の論理の仕方をとらえて内容を理解し、自分の表現に役立てられる力をつけます。

* 習熟度に応じてワークシートを工夫したり、定期テストの解説を丁寧に行ったり、補充的な学習を行ったりして、できるまで指導します。

(3) 3年生は2年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読めるように徹底します。

* 授業の最初に漢字小テスト。時間をおいての漢字確認テストを行います。漢字の宿題を出し、繰り返し学習します。

社会（3年）

学年 3年 授業時数 週4時間×35週＝140時間

歴史・公民分野の合計での履修時間となります。

<歴史的分野>

目 標

- (1) 日本の歴史の政治、産業、社会の様子、文化の特色などについて、他の時代と違う点や共通している点をつかみ、各時代の特色を理解する。
- (2) 社会や文化の発展、人々の生活の向上に尽くした人物について学び、その果たした役割や生き方を具体的に理解する。
- (3) 日本との歴史や文化の関わりを考え、他民族の文化、生活などに興味をもつ。
- (4) 身近な地域の歴史を調べることを通して、地域の資料を集め、必要な部分を選んで活用し、いろいろな面や角度から考える力をつける。

具体的到達目標

- ・授業に積極的に取り組み、歴史に対する関心を高め、意欲をもって学ぶ力をつける。
- ・歴史上の人物・文化財の果たした役割について、様々な面、色々な角度から考える力をつける。
- ・歴史学習に必要な資料を集めてうまく利用し、考えた流れや結果を年表にしたり、レポートにまとめる力をつける。
- ・歴史学習に必要な基本を理解し、身につける。

使用教材

教科書	新しい社会 歴史（東京書籍）
地図帳	中学校社会科地図（帝国書院）
資料集	つながる歴史（浜島書店）
ワーク	歴史の完全学習2・3（正進社）

<公民的分野>

目 標

- (1) 民主社会において、個人は常に他の人間とかかわりを持ちながら社会生活を営んでおり、その限り、個人の自由・権利には社会的な責任・義務が伴うことを理解する
- (2) 政治や経済に関する学習を通して、個人と社会との関わりについての見方や考え方を身につけ、社会の色々な問題に目を向け、自ら考えようとする力をつける
- (3) 世界平和と福祉の増大のために、各国民が協力し合い色々な問題の解決方法を考えるとともに、国際社会の中での日本の役割について考える力をつける。
- (4) 社会に対する関心を高め、疑問をもった課題に対して色々な資料を集め、必要な情報を選択し、さまざまな面やいろいろな角度から考える力をつける。

到達目標

- ・授業に積極的に取り組み、社会に関する関心を高め、意欲をもって学ぶ力をつける。
- ・政治のしくみやの様子を学び、日頃のニュースや新聞記事などの社会の情報に関心をもつ。
- ・社会の様子や出来事を様々な面、色々なから考える力をつける。
- ・新聞や統計など調査に必要な資料を集めてうまく利用し、考えた流れや結果を図表にしたり、レポートにまとめる力をつける。
- ・社会の出来事や社会生活の中で必要な基本用語を理解し、身につける。

使用教材

教科書	新しい社会 公民的分野（東京書籍）
地図帳	中学校社会科地図（帝国書院）
ワーク	まんがワーク公民（あかつき）

評価方法

「通知票評価規準」に準じておこなう。定期テスト、単元テスト、レポート、授業参加姿勢、提出物状況等（ワーク、ノート、宿題等）を総合的に判断する。

3つの観点（知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）による観点別学習状況の評価を基本とし、目標をどれだけ達成できたかによって評価します。評価は観点別評価を基本とし総合的に評価します。

○学習上の注意・助言

- ・提出物の提出期限は必ず守る。
- ・積極的に発表し、指示のあるときは、周囲と話し合い、積極的に意見交換する。
- ・他人の発表や発言はしっかり聞き、自分の考えははっきり言えるようにする。
- ・教科書などの基本的用語（太文字）は意味を辞書で調べ、その意味や前後関係と関連させて覚える。
- ・調べた内容はできる限り年表にまとめて表現するようにする。
- ・調べる時には、できる限りいろいろな資料を集めて考察し、必要な部分を判断して利用するようにする。
- ・レポートにする時は自分の予想、考えた流れ、利用した資料、結果という流れでまとめていく。また、他人が見て見やすい工夫をする。
- ・一つの疑問や課題に対して、色々な面や色々な角度から考えるようにする。
- ・ノートはプリントを左、板書を右にし、黒板を移すだけでなく、重要と思われる説明や自分の見解を積極的にメモしていく。

○家庭学習

- ・基本用語は書きながら覚える。その際に年表にしてみる。
- ・教科書などで出てきた人名や文化・財などは必ず時代を年表で確認しておく。
- ・歴史上の出来事は年代を必ず覚えておく。
- ・資料から考察し、自分の考えを文章でまとめられるようにする。
- ・授業プリントを復習し、記述できるようにする。
- ・ワークを繰り返し（3回以上）学習する。

年間授業計画

歴 史		公 民	
	単元名		単元名
1 学期	第6章 二度の世界大戦と日本 1節 第一次世界大戦と日本 2節 大正デモクラシーの時代 3節 世界恐慌と日本の中国侵略 4節 第二次世界大戦と日本 第7章 現代の日本と世界 1節 戦後日本の出発 2節 冷戦と日本の発展 3節 新たな日本の時代と世界 評価などの予備時間	1 学期	第1章 現代社会と私たち 1節 現代社会の特色と私たち 2節 私たちの生活と文化 3節 現代社会の見方や考え方 第2章 人間の尊重と日本国憲法 1節 人権と日本国憲法 2節 人権と共生社会 3節 これからの人権保障
	2 学期	2 学期	第3章 現代の民主政治と社会 1節 現代の民主政治 2節 国の政治のしくみ 3節 地方自治と私たち 第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と市場経済 2節 生産と労働 3節 市場経済の仕組みと金融 4節 財政と国民の福祉 5節 これからの経済と社会
3 学期		3 学期	第5章 地球社会とわたしたち 1節 国際社会の仕組み 2節 さまざまな国際問題 3節 これからの地球社会と日本 終章 よりよい社会をめざして 評価などの予備時間

数学（３年）

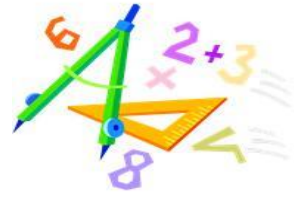
1 学習の目標

数学科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 数学編』より



2 学習の心構え

授業では

- ①授業は、学習の基本です。先生の説明や生徒の発表をよく聞き、しっかりと理解していこう。
- ②ノートをとることは大切なことです。しかし、きれいにまとめることだけに集中せず、じっくりと考えることが大切です。
- ③疑問に思うことやわからないことは、進んで質問しましょう。
- ④失敗を恐れず、挙手や発言を多くし、自分から進んで学習に参加しよう。
- ⑤学習したことの振り返りをし、どんな考えをしたか。どのように問題解決をしたかを、「学びの足跡」に記入しよう。

家庭学習では

○継続は力なり

計算問題を繰り返し行い、基礎学力を身につけるなど復習に力をいれよう。

○粘り強く取り組もう

まずは、じっくりと考えよう。わからない問題も５分は考えるようにしよう。

○わかるころまで戻ろう

数学は、積み重ねの教科です。分からなくなったら、分かるころまで戻り、また、分かるころから一歩ずつ取り組もう。

3 評価の観点及びその趣旨と評価の方法

評価の観点	趣旨	評価の方法
(1)「知識・技能」の評価について	・数の平方根、多項式と二次方程式、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理、関数$y = ax^2$、標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	単元テスト 定期テスト
		取り組みの様子
(2)「思考・判断・表現」の評価について	数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表式、グラフを相互に関連付けて考察する力、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。	単元テスト 定期テスト
		取り組みの様子
(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価について	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。	学びの足跡
		取り組みの様子 ノート ワーク

4 学習する内容や学習のねらい

月	節	目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	1章 式の展開と 因数分解 (19)	簡単な多項式について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすることができる。 ・簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。 $(a+b)^2=a^2+2ab+b^2$ $(a-b)^2=a^2-2ab+b^2$ $(a+b)(a-b)=a^2-b^2$ $(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$	・既に学習した計算の方法と関連づけて、式の展開や因数分解をする方法を考察し表現することができる。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することができる。	・式の展開や因数分解をすることのよさを実感して粘り強く考え、多項式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
5					
6	2章 平方根 (16)	正の数の平方根について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・数の平方根の必要性和意を理解することができる。 ・数の平方根を含む簡単な式の計算をすることができる。 ・具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。	・既に学習した計算の方法と関連づけて、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現することができる。 ・数の平方根を具体的な場面で活用することができる。	・数の平方根のよさを実感して粘り強く考え、数の平方根について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、数の平方根を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
7	3章 二次方程式 (13)	二次方程式について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・二次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解することができる。 ・平方の形に変形したり因数分解したりして二次方程式を解くことができる。 ・解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くことができる。	・平方根の考えや因数分解をもとにして、二次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・二次方程式を具体的な場面で活用することができる。	・二次方程式のよさを実感して粘り強く考え、二次方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、二次方程式を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
8					
9	4章 関数 $y=ax^2$ (16)	関数 $y=ax^2$ について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・関数 $y=ax^2$ について理解することができる。 ・事象の中には関数 $y=ax^2$ として捉えられるものがあることを理解することができる。 ・いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解することができる。	・関数 $y=ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連づけて考察し表現することができる。 ・関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することがで	・関数 $y=ax^2$ のよさを実感して粘り強く考え、関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
10					

				きる。	
11	5章 図形と相似 (25)	図形の相似について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解することができる。 ・基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積の比や体積の比との関係について理解することができる。	・三角形の相似条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめることができる。 ・平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめることができる。 ・相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。	・相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、図形の相似について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、相似な図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
12	6章 円の性質 (10)	円周角と中心角の関係について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・円周角と中心角の意味を理解することができる。	・円周角と中心角の関係をみいだすことができる。 ・円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用することができる。	・円周角と中心角の関係のよさを実感して粘り強く考え、円周角と中心角の関係について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、円周角と中心角の関係を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
1	7章 三平方の定理 (13)	三平方の定理について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・三平方の定理の意味を理解することができる。	・三平方の定理を見いだすことができる。 ・三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。	・三平方の定理のよさを実感して粘り強く考え、三平方の定理について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、三平方の定理を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
2	8章 標本調査とデータの活用 (6)	標本調査について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・標本調査の必要性和意味を理解することができる。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理することができる。	・標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現することができる。 ・簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断することができる。	・標本調査のよさを実感して粘り強く考え、標本調査について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、標本調査を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりすることができる。

3 数学科におけるアクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングとは、主体的・対話的で深い学びのことを指します。具体的に数学科においては、以下のような活動です。

ア 既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだし、発展させる活動

例) 速算法(簡便算)の仕組みを明らかにし、新たな速算法とその仕組みを考える活動 など

イ 日常生活や社会で数学を利用する活動

例) 三平方の定理を利用して、実測することが難しい距離などを求める活動 など

ウ 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動

例) いろいろな事象の中にある関数関係を見いだし、その変化や対応の特徴を説明する活動 など

このように、知識や技能の定着を図る授業以外では、アクティブ・ラーニングを通して学習をすすめていきます。

4 ICT 活用

・教科用図書の表紙には QR コード表記してあり、書く単元の「数学ライブラリー」の動画による説明があります。

また、章末問題「学びをたしかめよう」「学びを身につけよう」の解答解説があります。

・「図形と相似」「円の性質」「三平方の定理」における図形の性質を認識する場面

・「標本調査とデータの活用」における、データの整理・分析を行う場面

第3学年 「理科」 シラバス

〈指導計画〉

寄居町立寄居中学校

	学 習 内 容	学 習 目 標
1 学 期	単元1 化学変化とイオン ○水溶液とイオン ・水溶液を電流 ・電解質の水溶液に電流を流したときの変化 ・原子の成り立ちとイオン ○酸、アルカリとイオン ・酸性やアルカリ性の水溶液の性質 ・酸性,アルカリ性を示すものの正体 ・酸性,アルカリ性の強さ ・酸とアルカリの反応 ○電池とイオン ・金属とイオン ・化学変化と電池 ・さまざまな電池	○水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を行い、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見いだして理解する。また、電解質水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を行い、電極に物質が生成することからイオンの存在を知るとともに、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを知る。 ○酸とアルカリの性質を調べる実験を行い、酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知る。中和反応の実験を行い、酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解する。 ○金属を電解質水溶液に入れる実験を行い、金属によってイオンへのなりやすさが異なることを見いだして理解する。電解質水溶液と2種類の金属などを用いた実験を行い、電池の基本的な仕組みを理解するとともに、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを知る。
2 学 期	単元2 生命の連続性 ○生物の成長 ・生物の成長と細胞 ○生物の殖え方 ・受精によらない生殖 ・受精による生殖 ・特徴の伝わり方～生殖と遺伝～ ○遺伝の規則性 ・遺伝の規則性 ・DNA とは？ 遺伝子の本体 ○生物の種類の多様性と進化 ・脊椎動物のなかまの変遷 ・進化の証拠 ・生物の多様性と進化 単元3 地球と宇宙 ○天体の1日の動き ・太陽や星の動きに規則性はあるか ・天体はなぜ回転する？ ○天体の1年の動き ・星や太陽の1年の動き ・四季があるのはなぜか	○体細胞分裂の観察を行い、その順序性を見いだして理解するとともに、細胞の分裂と生物の成長とを関連づけて理解する。 ○生物の殖え方を観察し、有性生殖と無性生殖の特徴を見いだして理解するとともに、生物が殖えていくときに親の形質が子に伝わることを見いだして理解する。 ○交配実験の結果などに基づいて、親の形質が子に伝わる時の規則性を見いだして理解する。 ○現存の生物および化石の比較などを通して、現存の多様な生物は過去の生物が長い時間の経過の中で変化して生じてきたものであることを体のつくりと関連づけて理解する。 ○天体の日周運動の観察を行い、その観察記録を地球の自転と関連づけて理解する。 ○星座の年周運動や太陽の南中高度の変化などの観察を行い、その観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関連づけて理解する。
3 学 期	○月や惑星の動きと見え方 ・月の位置と見え方 ・太陽 - 地球 - 月の特殊な位置関係 ・惑星とは「惑う星」 ○太陽と恒星 ・太陽 ・太陽系の星たち ・太陽系の外側の世界 単元4 運動とエネルギー ○力の規則性 ・水がおす力 ・みんなの力を合わせると ・斜面上の物体と重力 ○力と運動 ・運動について調べるには	○月の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、月の公転と見え方を関連づけて理解する。また、金星の観測資料などをもとに、金星の公転と見え方を関連づけて理解する。 ○太陽の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、太陽の特徴を見いだして理解する。観測資料などをもとに、惑星と恒星などの特徴を見いだして理解するとともに、太陽系の構造について理解する。 ○水圧についての実験を行い、その結果を水の重さと関連づけて理解する。また、水中にある物体には浮力がはたらくことを知る。力の合成と分解についての実験を行い、合力や分力の規則性を理解する。 ○物体の運動についての観察、実験を行い、運動には速さと向きがあることを知る。物体に力がはた

・力がはたらき続けるときの運動 ・運動を続ける物体 ・おしておされて,おされておして ○仕事とエネルギー ・楽に仕事をするには ・高さと速さがもたらすもの ○エネルギーの移り変わり ・移り変わるエネルギー 単元5 自然環境や科学技術と私たちの未来 ○生物と環境との関わり ・生物どうしのつながり ・生態系における物質の循環 ○自然環境と私たち ・身近な自然環境の調査 ・自然環境の保全 ○自然災害と私たち ・調べよう身近な自然災害 ・私たちにできることは何か? ○エネルギー資源の利用と私たち ・生活に欠かせない電気 ・エネルギー資源の開発と有効な利用 ○科学技術の発展と私たち ・さまざまな物質とその利用 ・限りある資源を有効な利用 ・発展を続ける科学技術 ○科学技術の利用と自然環境の保全 ・科学技術の利用と自然環境の保全	らく運動および力がはたらかない運動についての観察, 実験を行い, 力がはたらく運動では運動の向きや時間の経過に伴って物体の速さが変わることおよび力がはたらかない運動では物体は等速直線運動することを見いだして理解する。 ○仕事に関する実験を行い, 仕事と仕事率について理解すること。また, 衝突の実験を行い, 物体のもつ力学的エネルギーは物体が他の物体になしうる仕事ではかれることを理解する。力学的エネルギーに関する実験を行い, 運動エネルギーと位置エネルギーが相互に移り変わることを見いだして理解するとともに, 力学的エネルギーの総量が保存されることを理解する。 ○さまざまなエネルギーとその変換に関する観察, 実験などを通して, 日常生活や社会ではさまざまなエネルギーの変換を利用していることを見いだして理解する。 ○生態系における生産者と消費者との関係や分解者のはたらきを知り, 微生物のはたらきを調べて, 植物, 動物及び微生物を栄養の面から相互に関連づけて理解するとともに, 自然界では, これらの生物がつりあいを保って生活していることを見いだして理解する。 ○身近な自然環境について調べ, 様々な要因が自然界のつりあいに影響していることを理解するとともに, 自然環境を保全することの重要性を認識する。 ○地域の自然災害について, 総合的に調べ, 自然と人間との関わり方について認識する。 ○人間は, 水力, 火力, 原子力, 太陽光などからエネルギーを得ていることを知るとともに, エネルギー資源の有効な利用が大切であることを認識する。 ○物質に関する観察, 実験などを通して, 日常生活や社会では, 様々な物質が幅広く利用されていることを理解するとともに, 物質の有効な利用が大切であることを認識する。科学技術の発展の過程を知るとともに, 科学技術が人間の生活を豊かで便利にしていることを認識する。 ○自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して, 持続可能な社会をつくることが重要であることを認識する。
--	--

* 今後の新型コロナウイルス感染症対策によって、単元の順番の入れ替えが生じることもあります。

3 年 理 科

1. 学習のねらい

(1) 自然の中に生きている生物やもの、地球や宇宙、さらに、自然の様々な用語を知識として理解し深める。また、科学的に探求するために必要な観察、実験の方法などを正しく身につけたり、自分の考えを他人に伝えるためのいろいろな方法を知り、わかりやすく表現することができるようになる。
(2) 疑問を解決する方法を考えたり、実験や観察などの結果から筋道を立てて考え分析し、解釈することができるようになる。
(3) 自然の中に生きている生物やもの、地球や宇宙、さらに、自然の様々な現象などに進んで関わり、主体的に学習に取り組もうとする力を身につける。

2. 学習への心構え

① 予習して授業の学習内容を教科書で確認しておく。 (わからないことは授業でわかるようにする。)
② 授業の始まる前に授業の準備をし、チャイム席を守る。
③ 授業は真剣に、集中して、積極的に取り組む。 (観察や実験は学校でしかできないことが多い。)
④ 提出物は、丁寧に仕上げ必ず期限までに提出をする。
⑤ 忘れ物は絶対にしない。
⑥ 復習はその日のうちに行い、授業を思い出しながら、教科書やノート、授業で使ったプリントなどをもう一度見直す。(記憶が鮮明なその日のうちに復習すれば、短時間でできる。)
⑦ ワークブックや問題集を使って、問題を解いてみる。 (「わかる」知識を使って「できる」まで高める。問題の解き方は「考え方」がポイント。答えが合っているだけでなく、「考え方」まで正しくなるようにすること。) ※ 同じような問題で何度も間違える人がいます。その人の「クセ」のようなものです。自分の「クセ」をつかんで直すようにすること。

3. 観点別評価について

観点別評価のA・B・Cは、それぞれ以下の基準で判定します。

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教師による観察および、授業評価シート			○
定期テストの得点	○	○	
小テスト・単元テスト	○	○	
パフォーマンステスト	○		
レポート・プリント	○	○	○
ノート等の得点および提出状況			○
A	・ レポートにおける表現と定期テストの正答率を含めた到達率がおおむね80%以上の生徒 ・ 定期テスト、小テスト等の正答率がおおむね80%以上の生徒	レポートに優れた思考力が見られ、定期テストの正答率を含めた到達率がおおむね80%以上の生徒	提出物の状況がよく、授業への取り組みが意欲的な生徒
C	レポートにおける表現と定期テストの正答率を含めた到達率がおおむね30%以下の生徒	レポートの評価と定期テストの正答率を含めた到達率がおおむね30%以下の生徒	提出物の状況が悪く、授業への取り組みが消極的な生徒

4. 評定について

評定は、各観点の成績を総合したものです。以下のような基準で判定します。

5. 各観点の評価項目と評価の方法について

観 点	評 価 項 目	評 価 の 方 法
知識・技能	①自然の事物・現象やものの名称についての知識 ②自然科学で使われている記号・術語についての知識 ③自然の事象・現象の性質や特徴についての知識 ④自然の事象・現象の内容や動きについての知識 ⑤科学的方法、手続き、手順についての知識・理解 ⑥自然科学の基本概念についての知識・理解 ⑦自然科学の原理や法則についての知識・理解 ①器具などの操作方法の理解 ②実験・観察の実験 ③適切な観察・実験器具の選択 ④対照実験や条件統一の理解 ⑤観察・実験の正しいデータの求め方 ⑥観察・実験の結果の処理と考察 ⑦安全に対する理解	ペーパーテスト ・客観式テスト ・記述式テスト ・論文体テスト による多面的・総合的評価 技能 - 操作的技能 (器具の選定、使い方) - 知的技能 (計画、測定、記録、処理、考察、表現) ・操作的技能は、パフォーマンステストおよびレポート ・知的技能は、レポートおよびペーパーテスト
思考・判断・表現	①問題を正しく把握する ②適切な実験や観察を計画する ③比較し、分類する ④数量的に把握する ⑤結果を把握する ⑥原理・法則を適応する ⑦筋道を立てて推論する ⑧分析的に判断する ⑨関連づけて総合的に判断する ⑩モデル化して考える	・ペーパーテスト（思考力を問う問題） ・レポートの考察部分 ※評価の視点 ・問題解決のための実験方法を考える ・観察、実験結果から法則性を見いだす ・基準を決めて分類したり、関係づけを行ったり 共通点と相違点を見つける ・データを読み取って計算する等結果を処理する ・因果関係から、結果を予想・類推する
主体的に学習に取り組む態度	①興味を示す ②内発的動機が生じる ③やる気を持つ ④見通しを立てる ⑤積極的にねばり強く取り組む ⑥成就感を味わう ⑦事象への驚きや畏敬の念を持つ ⑧生命を尊重する態度が身に付く ⑨自然環境を大切にする態度が身に付く ⑩科学的により深く研究しようとする	※指導過程では ・教師による観察 (チェックリスト) ※提出物では ・理科ノート ・実験報告書 (実験レポート) ・理科の問題集（ワーク） など

6. 本年度、特に力を入れて指導したいこと

- (1) 提出物を期限までにきちんと提出できるよう指導します。
- (2) 学習活動（話し合い、実験、話を聞く）の切り替えがしっかりできるよう指導します。
- (3) 基礎・基本の確実な習得を目指します。
- (4) 自分の考えをわかりやすく表現する力の習得を目指します。

音 楽 (3年)

1. 音楽科の目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

2. 学習の心構え

表現では・・・(歌ったり楽器を演奏したりする活動)

- ・まず気持ちを前面に出し、意欲的に演奏することが大切です。
- ・説明を良く聴き、アドバイスを素直に受け止めることにより上達します。
- ・課題意識を持ち、練習して克服していこうと努力することが必要です。
- ・合奏や合唱では、周囲と音色やリズムを合わせるように演奏することが重要です。
- ・パート練習やグループ練習では仲間と協力し合い、高め合うことが大切です。

鑑賞では・・・(CD・DVDや友人の演奏や先生の演奏を聴く活動)

- ・落ち着いた態度で、静かに注意深く聴く事が大切です。
- ・音や曲想の変化を感じ取りながら聴き、多くのことに気づくことが大切です。
- ・音楽を特徴付けている要素(旋律・リズム他)を感じ取り、言葉や文章で表現する力が必要です。

3. 授業の約束事

1 時間を守る

- ・休み時間に音楽室への移動を行い着席して待ち、チャイムと同時に授業を始めます。

2 忘れ物をしない

- ・教科書・ワーク・ファイル・筆記用具を必ず持参してください。

3 身だしなみに気をつける(服装・言葉遣い)

- ・音はその人を表します。心がけを良くして、美しい音を求めましょう。

4 積極的に表現する

- ・音楽は表現することに重点が置かれます。歌唱・器楽・鑑賞・創作など、自分の得意な分野を活かして表現力を磨き、能力を発揮してください。
- ・パート練習やグループ練習では、自分から進んで活動することが大切です。

5 集中して授業に臨む

- ・音楽の授業は1週間に1回です。
限られた時間の中で実力が発揮できるように、毎時間集中して取り組んでください。

4. 学習教材

- ①教科書 ●中学生の音楽 2・3 下
主に 3 年生で使用します。
●器楽の教科書
3 年間使用します。
- ②ワーク ●音楽の基本ワーク 2・3 下
音楽の基礎的な問題や楽譜や感想を書いたりするときに使用します。
- ③ファイル ●クリアブック
3 年間使用し、授業で配布した学習プリントや楽譜を保管します。

5. 教育に関する 3 つの達成目標を具現化するための取組

- (1) 音楽活動の基礎的な能力を伸ばす。
(音楽の諸要素＜リズム・旋律・和声他＞を感じ取り、表現の工夫ができるようにする)
- (2) 音楽の豊かさや美しさに対する感性を育てる。
(音色や曲想の変化に気づき、音や音楽を知覚する能力を伸ばす)
- (3) 音楽表現を通して自己の表現力を高める。
(歌唱活動を通して、生活に必要な表現力を身に付ける)

6. 評価について

評価の観点	評価の内容	評価の方法
知識・技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	・授業内での取り組み ・提出物（ワーク、プリント）の評価 ・定期テスト、実技テスト
思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・授業での表現力 ・提出物（ワーク、プリント）の評価 ・定期テスト、実技テスト
主体的に学習に取り組む態度	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・授業内での取り組み

1 年間の授業の流れ

月	題材	教材名	学習内容
4 5	音楽の基本を身につけよう 世界の愛唱歌を味わおう	花 ビンゴゲーム Yesterday 帰れソレントへ	日本の情景と日本人の心情を豊かに表現する 歌詞の内容を理解し、曲のもつ雰囲気や曲想を生かした表現をする 作詞作曲者や時代背景の理解
6	日本の音楽に親しもう	雅楽・能 郷土の芸能 おわら風の盆祇園祭 エイサー祭り	「雅楽」「能」についての理解 日本の伝統芸能に使われている楽器の種類や音色、歌い方の特徴を感じる 歌、楽器、衣装、動作、踊りなどが総合された郷土の音楽に関心をもつ
7	オーケストラの豊かな響きを味わおう	ブルタバ 組曲「展覧会の絵」 モーツァルト「レクイエム」	標題をもとにした、速度や強弱等が生み出す雰囲気や曲想の変化の聴取 スメタナが活躍した時代やその背景についての理解 曲の背景を知って曲を味わい、曲の良さをプレゼンテーションする
9 10 11	混声合唱の豊かな響きを味わおう	大地讃頌 クラス合唱曲	豊かな響きのある声で、曲にふさわしい歌唱表現をする 良い合唱を聴き自分たちのより良い表現に役立てる 協力して合唱を創り上げる喜びを味わう
12 1	日本の歌歌い継ごう	花の街 早春賦	曲に対する作者の思いを認識した、歌詞のイメージにふさわしい歌唱表現 日本語のもつ自然なリズムや抑揚を生かした歌唱表現 作詞者・作曲者についての理解
2 3	合唱の喜び 心をこめて歌おう	卒業式の歌 国歌・校歌	音色やハーモニーに気をつけ、全体の響きを意識した合唱 歌詞の内容や曲想を十分に味わい、曲を総合的にとらえた場に応じた表現をする 卒業する誇りと喜びを歌に込め、今までの音楽活動についてまとめる

[美術] (3年)

1 学習のねらい (目標)

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2 学習の心構え

- ①授業に必要な道具をそろえ、チャイム着席を守る。
 - ②話を聞くときは姿勢を正して静かに聞く。
 - ③楽しく、積極的に作品制作をする。
 - ④積極的に話し合い活動や発表、鑑賞活動をする。
 - ⑤最後まで根気強く制作に取り組み、作品の完成度を高める。
 - ⑥アイディアスケッチや作品などの提出期限を守る。
 - ⑦芸術家の作品や友達の作品から良さを見つけ、発想や技能を学ぶ。
 - ⑧協力して道具などの片付けを行い、責任を持って教室をきれいにする。
- 〈補足〉
- ①分からないことがあったら質問する。(直接またはふり返しカードにて)
 - ②どんな題材においても自分で挑戦し、制作していく。
 - ③お気に入りのもの、気になったものなどをスケッチする機会をつくる。
 - ④完成した作品を飾ったり工夫して保管する。(例えば実物保管や写真保管など)

3 評価の仕方

(1) 観点別評価について

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生みだし豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
評価方法		
①行動観察、発言、対話 ②途中・完成作品 ③定期テスト	①行動観察、発言、対話 ②アイディアスケッチ ③途中・完成作品 ④定期テスト	①行動観察、発言、対話 ②自己評価カード ③作品紹介・鑑賞カード

※観点別の評価は5段階で絶対評価をします。

- ㉠：十分満足できるもののうち、特に程度が高い A：十分満足できる
 B：おおむね満足できる ㉡：努力を要する C：一層努力を要する

(2) 評定について

評定は各観点の成績を総合したものと考えますので、以下のようにつけます。
まず、観点別評価の㉠ A B ㉡ C を点数化します。

㉠：5点	A：4点	B：3点	㉡：2点	C：1点
------	------	------	------	------

1～5の評定における達成の度合いは以下の通りです。

5段階評定 (絶対評価)	段階	達成の度合い
	5	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」と判断されるもの
	4	「十分満足できる」状況と判断されるもの
	3	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
	2	「努力を要する」状況と判断されるもの
	1	「一層努力を要する」状況と判断されるもの

4 授業計画（学習内容と学習のねらい）

	題材名	学習内容	学習のねらい
1 学期	Message Design ～感謝をマークで伝えよう～	・ 色々なマークの発想源、形や色彩から受ける印象 ・ 構図と彩色の工夫 ・ ポスターカラーの特徴とにじみの表現方法 ・ 用具の使い方と制作における安全面 ・ 互いの作品の鑑賞の仕方	・ マークについて、興味・関心を持つ。 ・ 自分の気持ちを見つめ、主題を生み出し、心豊かな構想をする。 ・ 材料や用具の特性を生かして表現方法の工夫を図り、創造的に表現する。 ・ 参考作品や互いの作品を鑑賞し、作者の気持ち、よさや美しさを味わう。
	願いを表す形 ～日本の仏像～	・ 日本の仏像の歴史と種類 ・ 仏像の特徴（衣装、持ち物、ポーズ） ・ 発表と鑑賞の仕方	・ 日本の仏像の歴史や造形に興味・関心を持つ。 ・ 人々の願いが込められた仏像のよさや美しさを感じ取り味わう。
	風景画を描こう③ ～視点を変えた風景～	・ 風景の視点の位置を工夫して、主題を見出すこと ・ 描きたいものを強調する構想の方法 ・ 透視図法、空気遠近法などの遠近法の表現 ・ 見通しをもった制作過程 ・ 参考作品や互いの作品の鑑賞の仕方	・ スケッチなどを通して、主題をもって活動に取り組む。 ・ 主題を基に創造的な構成を工夫して描く。 ・ 材料や用具の特性を生かし、見通しを持って表現する。 ・ 作品に込められた思いについて話し合う。
2 学期	卒業制作① ～ドライポイントで夢を表現～	・ 凹版、凸版などの様々な版表現 ・ 材料の効果的な表現方法 ・ 構図の工夫 ・ ドライポイントの制作過程と道具の扱い方 ・ 材料の効果的な使い方と用具の使い方 ・ 作品の発表と鑑賞の仕方	・ 版画作品のよさに興味・関心を持つ。 ・ 自分の夢など、明るい気持ちを具体的な言葉にして主題を生み出す。 ・ 木版画の特性を生かし、見通しを持って表現する。 ・ 作品に込められた作者の表現意図について話し合い、よさを味わう。
3 学期	卒業制作② ～根付ストラップづくり～	・ 用途や機能、材料などから生まれる美しさへの気付き ・ 根付の特徴と樹脂粘土を使った基本的な技能 ・ 色々な角度から形体をとらえる立体表現の方法 ・ ポスターカラーでの彩色の工夫 ・ 参考作品や友人の作品の鑑賞の仕方	・ 日本の伝統工芸や、身近な生活の中の工芸デザインに興味・関心を持つ。 ・ ストラップにしたい動植物などの形を自由に発想させ、立体的に表現するための構想を練る。 ・ 実物感や精密さを追求した技法や彩色を工夫して表現する。 ・ 日本の風土や暮らしから育まれた日本の伝統工芸のよさや美しさを味わって鑑賞する。

第3学年「保健体育科」シラバス

担当

1、保健体育科の目標

- ・自ら学習に取り組み、意欲的に学び、運動に親しむ生徒
- ・個々の課題を持ち、課題解決に取り組む生徒
- ・進んで心身を鍛え、技能を向上させることのできる生徒
- ・助け合いながら行動したり、安全に留意して行動のできる生徒

2、学習の心構え

＜体育授業の約束6か条＞

①チャイムであいさつ。号令にあわせ、心を込めて元気にあいさつ。

②絶対に忘れ物をしない。

（教科書・実技の本・ファイル・保健学習ノート・筆記用具など）

③学校指定の運動着を着用する。必ず教室で着がえて活動場所に行く。

※下着は白、ハイネックやインナーは不可。（部活動で使用するインナー類も体育授業では不可）

④やむをえず、見学の際は、親の承認を必ず見せること（生徒手帳、または紙に書いてくる）。

※体調不良等の見学で、ジャージ着用を希望する者も、その旨を書いてくること。

※見学でもカードの記入・用具の準備や片づけ・その他やれる手伝いを進んでやること。

⑤毎時間自分のやるべきこと、本時の目標をしっかりとって臨むこと。

⑥種目に入ったら、係や当番が用具を準備しておく。

※1、授業道具の5点セットは、必ず袋に入れて教室の机の横にかけておく。

※2、ジャージは11月～3月まで着用可。それ以外は、教室で脱いで学習の場に行くこと。

※3、授業の記録が時間内にできないときは、休み時間等を使いその日のうちに記入すること。

※4、ウインドブレーカーは1月（球技Ⅱ～）から3月まで着用可。ただし、長ジャージを着用しても寒い場合のみ長ジャージの上に着用することを可とする。（ゲームや計測時には必ず脱ぐ）

3、保健体育科の評価の仕方

（1）各観点の評価項目と評価の方法について

	評 価 項 目	評 価 方 法
知識・技能	（知識） ①各種目の特性や学習の進め方を知っている。 ②ルールや審判の仕方、試合の運営、発表や鑑賞の仕方、安全な行動の仕方を知っている。 ③保健学習の基礎知識が身に付いている。 （技能） ①運動の基本的な技能が身に付いている。 ②自己の能力に応じて記録を伸ばすことができる。 ③課題解決のための効果的な練習ができる。 ④身につけた技能を試合や発表会・記録会に生かすことができる。 ⑤相手に応じて作戦を立て、試合ができる。	・定期テスト ・学習ノート ・学習カード ・教師による観察 ・技能(スキル)テスト ・試合、発表会
思考・判断・表現	①自己やチームの課題をつかむことができる。 ②目標記録や課題を設定している。 ③課題解決のための効果的な練習を工夫している。	・学習ノート ・学習カード
主体的な態度	①各単元に関心を持って、進んで取り組み、楽しもうとする。 ②互いに協力し、積極的に練習や競技、試合、発表を行おうとする。 ③授業の約束や競技のルールを守り、「公正な態度」で活動することができる。 ④自分や仲間の健康や、活動場所・用具・服装の安全を確かめて活動しようとしている。 ⑤遅刻をせず、学校及び体育授業指定の服装で活動することができる。	・授業開始時の点検 ・指導過程では、教師による観察（チェックリスト） ・学習ノート ・学習カード

4、学習内容とねらい () 内の数字は、おおまかな授業時間数

	運動領域	種目	学習のねらい
1 学期	体育理論 (1)	「文化としてのスポーツの意義」について学習します	
	体づくり運動 (8)	体ほぐしの運動 体力を高める運動	自分の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持って体ほぐしをしたり、体力を高めたりします。
	陸上競技Ⅰ (4)	短距離走・リレー	自分の能力に応じて中間走へのつなぎを滑らかにするなどして速く走ることができるようにします。
	球技Ⅰ (1 2)	選択 (ソフトボール・バレーボール)	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を立て攻防のあるゲームができるようにします。
	水泳 (8)	クロール・平泳ぎ 背泳ぎ	自分の能力に応じて運動の技能を高め、速く泳いだり、続けて長く泳いだりできるようにします。
	保健 (6)	「感染症の予防、健康を守る社会の取り組み」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身につけられるようにします。	
2 学期	体育理論 (1)	「文化としてのスポーツの意義」について学習します	
	器械運動 (8)	選択 (とび箱・マット運動)	自分の能力に応じて運動の技能を高め、技が円滑にできるようにします。
	陸上競技Ⅰ (7)	長距離走	自分の能力に応じて目標を持ち、競技したり記録を高められるようにします。
	陸上競技Ⅱ (7)	走り幅跳び	自分の能力に応じて目標を持ち、競技したり記録を高められるようにします。
	武道 (8)	柔道	自分の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開できるようにします。
	保健 (8)	「健康を守る社会の取り組み、健康と環境」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身につけられるようにします。	
3 学期	体育理論 (1)	「文化としてのスポーツの意義」について学習します	
	ダンス (8)	現代的なリズムのダンス	リズムに乗って体を動かしたり、感じを込めて踊ったりするとともに、作品を発表や鑑賞できるようにします。
	球技Ⅱ (1 2)	選択 (バスケットボール・サッカー)	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を立て攻防のあるゲームができるようにします。
	保健 (6)	「健康と環境」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身につけられるようにします。	

技術・家庭（技術分野 3 年）

1 学習のねらい 技術・家庭科とはこんな教科です

技術・家庭科でめざすこと

【技術分野の目標】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び、情報の技術についての基礎的な理解を図り、技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関りについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決策を構想し、製作図に表現し、試作等を通して具体化し実践を評価・改善するなど課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 学習の心構え 特色ある学習

- 製作、整備、操作、実習や、実験、観察、見学、調査・研究など、それぞれの特徴を生かした適切な実践的・体験的な学習活動を行います。
- 生徒自らが課題を発見し、見方考え方を働かせ、意欲を持って追求し考え方を深め、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返します。
- コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を、積極的に活用します。
- 技術分野では、機械類、引火性液体、電気、火気などを取り扱って実習するため、安全の保持に十分留意するとともに、安全な行動を進んでできるようにします。

3 技術・家庭科の評価の仕方 (1) 評価の観点 (2) 観点ごとのポイント

評価の観点・方法

技術・家庭科は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

① 知識・技能

この観点は基礎的な技術について、その仕組みやそれらに係る技能の習得状況を評価するものであり、環境との関りや生活等の場面でも活用できる技術の概念の理解も評価します。

② 思考・判断・表現

この観点は技術を用いて生活や社会における問題を解決するための思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価するものです。

③ 主体的に学習に取り組む態度

この観点は粘り強い取り組む態度や、自ら学習に取り組みながら学習を見通し、より良い方向に組み立てようとする態度を評価するものです。

学習内容

「技術分野」及び「家庭分野」の2分野での構成になり合わせて評価します。技術分野の内容は「A材料と加工の技術」及び「Bエネルギー変換の技術」「C生物育成の技術」「D情報の技術」を行います。

4 3年間でこんな学習をします

(技術分野) () 内の数字は授業時数

第1学年	ガイダンス (2)	Cエネルギー変換の技術(17) ・LEDライトの製作と改善を通して持続可能な社会について考えよう。	D 情報の技術 (18) ・情報を活用して生活にいかそう。 ・VBスクリプトで計測制御のプログラムを開発し健康チェックしよう。	合計35時間
第2学年	A 材料と加工の技術 (30) 机上を整頓する作品を作って身近な生活の問題を解決しよう	D 情報の技術(5) VBスクリプトで計測制御のプログラムを開発し、問題解決の手順を知ろう		合計35時間
第3学年	B 生物育成の技術(18) 環境にやさしい野菜作りを通して環境保全について考えよう。			合計18時間

5 「B 生物育成の技術」のねらい

生物育成の技術の見方・考え方を働かせ実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている生物育成の技術について基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、生物育成の技術と生活や社会、環境との関りについて理解を深めるとともに、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に生物育成の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

6 「B 生物育成の技術」の内容

【内容】

<生徒が学習する項目>

- (1) 生活や社会と生物育成の技術
- (2) さまざまな生物育成の技術

- (3) 生物育成の技術による問題解決
- (4) これからの生物育成の技術
- (5) 無農薬野菜づくり(夏野菜・冬野菜)

7 学習内容（一部抜粋）

生物育成の技術	
時数	内容
17時間	環境にやさしい野菜作りを通して環境保全について考えよう。 ・生活や社会を支える生物育成の技術を通して食料問題解決の工夫やしくみ ・身の回りにある生物育成の技術 ・栽培に必要な土づくり ・さまざまな生物育成の技術 ・生物育成の計画 「栽培計画の立案」 トマト・大根など ・生物育成の実習を通して問題解決を考える - テーマ「環境にやさしい野菜づくり」 ・動物の飼育 「鶏の飼育」 ・水産生物の栽培技術 ・森林の育成技術 ・生物育成のふりかえり

技術・家庭科（家庭分野 3 年）

1 学習のねらい 技術・家庭科とはこんな教科です

技術・家庭科でめざすこと

【家庭分野の目標】

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○生活と技術について基礎的な理解と図るとともに、それらに係る技術を身に付けるようにする。

○生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構築し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。

○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 学習の心構え 特色ある学習

○製作、整備、操作、調理などの実習や、実験、観察、見学、調査・研究など、それぞれの特徴を生かした適切な実践的・体験的な学習活動を行います。

○生徒自らが課題を発見し、意欲を持って追求し、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返し行います。

○コンピュータやタブレットなどの情報通信ネットワークなどの情報手段を、技術分野との関連を図りながら積極的に活用します。

○技術・家庭科では、機械類、刃物類、引火性液体、電気、ガス、火気などを取り扱って実習するため、安全の保持を十分留意するとともに、安全な行動を進んでできるようにします。

3 技術・家庭科の評価の仕方

評価の観点・方法

技術・家庭科は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

○知識及び技能

家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けているか評価します。

○思考・判断・表現

これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけているか評価します。

○主体的に学習に取り組む態度

家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしているか評価します。

〈評価方法〉

製作物、具体物、ワークシート、学習カード等の記述、論述、レポート、計画表、実践気力表の記述、発言、行動観察、発表やグループでの話し合いの内容、定期テスト、実技テストから評価します。

4 学習内容 3年間の学習

学習内容

家庭分野の内容は「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の3つの内容から構成されています。1年生は、隔週で家庭分野を履修します。

3年間の学習でこんな学習をします。

第1学年 3 5時間	【ガイダンス】【A 家族・家庭生活】【B 衣食住の生活 食生活】【C 消費生活・環境 消費生活】 1 時間 3 時間 2 4 時間 7 時間
第2学年 3 5時間	【B 衣食住の生活 衣生活】【B 衣食住の生活 住生活】 【C 消費生活・環境 環境】 2 0 時間 8 時間 7 時間
第3学年 1 7. 5時間	【A 家族・家庭生活】【生活の課題と実践】 まとめ 1 7 時間 0. 5 時間

5 学習する内容や学習のねらい

「A 家族・家庭生活」 1 7. 5 時間

「A 家族・家庭生活」のねらい

課題をもって、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族、家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族・家庭生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、家族・家庭や地域における生活の課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとする。

学習する内容 1 7. 5 時間 ○幼児の生活と家族 ・ 幼児のころと今の自分 ・ 幼児の体の発達 ・ 幼児の心の発達 ・ 発達にとってのおとなの役割 ・ 遊びが必要なわけ ・ 遊びを支える環境 ○手作りのおもちゃづくり【生活の課題を实践】 ・ フェルトのボールづくり ○幼児とのかかわり ・ ふれ合い体験の前に ・ ふれ合い体験 ・ ふれ合い体験は幼児からの贈り物 ・ 子どもの成長と地域 ○家庭生活と地域とのかかわり ・ 家庭生活と地域での活動	ねらい ○幼児の生活と家族について、課題をもって、幼児の発達と生活、幼児の関わり方に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、それを支える家族の役割や遊びの意義について理解し、幼児との関わり方を工夫することができるようにする。 ○幼児の遊びの必要性を理解し、好ましいおもちゃについて考え工夫して、生活を豊かにするものの製作での技能を生かして、手作りのおもちゃの製作することができるようにする。 ○家族・家庭や地域との関わりについて、課題をもって、家族の立場や役割、家庭生活と地域との関わりについて理解し、家族関係や高齢者との関わり方にかんする基礎的・基本的な知識を身に付け、家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり協働する方法を考え、工夫することができるようにする。
---	--

・多様な人びとが暮らす地域 ・地域に暮らす高齢者 ・高齢者とのかかわり ○持続可能な家庭生活 ・持続可能な家庭生活をめざして ・学習のまとめ	
--	--

※幼児とのふれ合いについては状況を踏まえ、実施が不可能な場合は、他の取り組みで代替えます。

4. 学習する内容や学習のねらい

月	学習する内容	学習のねらい
4	Unit 0 Three Interesting Facts about Languages Unit 1 Sports for Everyone ・障がい者スポーツについての理解を深め、人々を結びつけるスポーツの力について考える。 ・これまでに経験したことにもとづいて、相手に合ったプランを伝えることができる。	◆受け身の文の復習をする。 ◆現在完了形(経験用法)について、言語の働きと使用場面を理解することができる。 ◆現在完了形(経験用法)を使って、「質問する」「答える」「発表する」「説明する」「繰り返す」「招待する」等の自己表現ができる。
5	Unit 2 Haiku in English ・海外でも愛される日本の伝統文化の魅力を知り、言語や文化のちがいをについて考える。 ・ずっと好きなことや、これまで取り組んできたことについて伝え合うことができる。	◆現在完了形(完了・継続用法)について、言語の働きと使用場面を理解することができる。 ◆現在完了形(完了・継続用法)を使って、「質問する」「答える」「報告する」「相づちを打つ」「説明をする」等の自己表現ができる。 ◆現在完了進行形について、言語の働きと使用場面を理解することができる。また、使用場面を理解し、使い分けができる。
6	Unit 3 Animals on the Red List ・世界の絶滅のおそれのある動物について知り、自分たちにできることを考える。 ・自分の意見や考えを加えて記事を書くことができる。	◆It is ... (for + (人など)) + to, want + (人など) + to について、言語の働きと使用場面を理解することができる。 ◆It is ... (for + (人など)) + to, let [help] + (人など) + 動詞の原形を使って、「説明する」「質問する」「答える」「賛成する」「意見を言う」等の自己表現ができる。
7	Stage Activity 1 My Activity Report ・これまでの経験をふり返って活動報告を発表することができる。	◆既習事項の総復習 部活動や委員会・係などの活動報告のスピーチをすることができる。【AL】
9	Unit 4 Be Prepared and Work Together ・防災・安全への関心を高め、地域の一員として防災に取り組む意識を持つ。 ・標識が何を意味しているかを説明することができる。	◆間接疑問文, SVOO (what 節)について、言語の働きと使用場面を理解することができる。 ◆間接疑問文, SVOO (what 節), 現在分詞 を使って、「質問する」「答える」「説明する」「礼を言う」「報告する」「描写する」等の自己表現ができる。
10	Unit 5 A Legacy for Peace ・ガンディーの功績を知り、平和や人権の大切さを考える。 ・人やものについて詳しい情報を加えて説明することができる。	◆名詞を修飾する文, 関係代名詞 who と関係代名詞 that [which] (主格・目的格)について、言語の働きと使用場面を理解することができる。 ◆名詞を修飾する文, 関係代名詞 を使って、「発表する」「説明する」「ほめる」「繰り返す」「相づちを打つ」「描写する」「質問する」等の自己表現ができる。
11	Stage Activity 2 Discover Japan ・日本や郷土の文化などを紹介する文を、詳しい情報を加えながら書くことができる。	◆既習事項の総復習 日本の文化について紹介するパンフレットを書くことができる。【AL】
12	Unit 6 Beyond Borders ・国をこえて助け合う大切さを知り、自分に何ができるのかを考える。 ・架空の状況について説明したり、感想や意見を述べたりすることができる。	◆仮定法 (If + 主語 + 動詞の過去形, ...)について、言語の働きと使用場面を理解することができる。 ◆仮定法 (If + 主語 + 動詞の過去形, ...)を使って、「仮定する」「説明する」「質問する」「相づちを打つ」「繰り返す」「発表する」等の自己表現ができる。
1	Stage Activity 3 Let's Have a Mini Debate ・主張とその理由を明確にしなが、ディベートをしながら書くことができる。	◆既習事項の総復習 日本に住むのにより国かについてミニディベートをすることができる。
2	Let's Read 2 Power Your Future	◆既習事項の総復習 エネルギー問題に関する説明文を読んで、概要を理解し、自分の考えや意見を述べるすることができる。

英語（３年）

１．学習のねらい

英語科の目標

英語学習を通じて「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力」の育成を目指します。

そのために…

○聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションにおける技能を身に付ける。

○目的や場面、状況に応じた外国語を活用する力を養う。

○主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

こんな学力を

○はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、話の概要や短い説明の要点を捉えることができるようにする。

○日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章を読んで、概要や要点、必要な情報を捉えることができるようにする。

○関心のある事柄や日常的な話題、社会的な話題について即興で伝え合ったり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

○関心のある事柄や日常的な話題、社会的な話題についてまとまりのある内容話すことができるようにする。

○関心のある事柄や日常的な話題、社会的な話題についてまとまりのある文章を正確に書くことができるようにする。

２．今年度、特に力を入れて指導したいこと。

（１）英語の基礎学力の向上を目指します。

繰り返し学習を行うことにより、基礎の定着（単語のスペルや語順等の理解）を図ります。

（２）家庭学習の充実を図ります。

課題を与え、家庭学習に取り組めるようにします。

（３）英語のコミュニケーションの能力を伸ばします。

日々の授業で、目的や場面、状況に応じた英語を聞く力、読む力、話す力（やり取り）、話す力（発表）、書く力をバランスよく伸ばします。

３．英語科の評価の仕方

（１）評価の観点…３つの観点をＡ，Ｂ，Ｃで評価します。

3 観 点	①知識及び技能（聞き、読み、話し、書いて理解する力）	「設定した評価規準」（別掲）について Ａ…十分に達成している。 Ｂ…おおむね達成している。 Ｃ…達成がやや不十分である。
	②思考力、判断力、表現力等（英語を活用する力）	
	③学びに向かう力、人間性等	

（２）評定の対象となるものと評価の方法

３観点	対象となる活動	評価の方法
①知識及び技能	定期テスト、単元テスト、パフォーマンステスト ワークシート、授業中の音読活動など	達成度（得点）を評価 教師による観察評価→点数化
②思考力、判断力、 表現力等	定期テスト、単元テスト、パフォーマンステスト ワークシート、授業中の表現活動など	達成度（得点）を評価 教師による観察評価→点数化
③学びに向かう力、 人間性等	ワークシート、振り返りカード 教科書ワークの取り組み 課題プリント、ノート作成など	教師による記述内容の観察 達成度（得点）を評価

<通知票の内容と見方について>

令和5年度

通知票は、学校における生徒の学習活動や生活の様子などを家庭に連絡し、生徒に対する共通理解と教育効果を高めるための一つの手だてとなるものです。したがって、通知票の内容は、生徒の可能性を伸ばす観点から、生徒一人一人のよい点を認め、そのよさを引き出し、意欲を持たせるものとなるよう配慮しております。教科の評定のみにとらわれることなく、通知票の内容全体をよく理解していただき、家庭において適切な御指導をお願いいたします。

1 学習の様子について

単に知識・技能だけを評価するものではない

主体的に学習に取り組む態度や、基礎的・基本的な知識及び技能の習得、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等が育まれているかを評価しています。

作業・発表等

作品・レポート
ノート・ワーク等

① 各教科の評価の観点（道徳については、文章による評価を行う）

全教科で、右の3観点で評価します。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
--------	-------------	---------------

それぞれの観点項目に対して、**④・A・B・C**の5段階で**絶対評価**をします。

段階	達成の度合い
④	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
A	「十分満足できる」状況と判断されるもの
B	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
C	「努力を要する」状況と判断されるもの
C	「一層努力を要する」状況と判断されるもの

※授業に1度も参加していなかったり、テスト未受験や提出物未提出など、評価不能の場合は、斜線（/）が記載されます。

※絶対評価とは？
各教科の評価の
基準と学習目標に
したがって、達成
の度合いをもとに
人数制限等はなく
評価する方法。

ただし、通知票や指導要録には、**④とAの区別は無く、Aと表記されます。CとCについても同様です。**

この観点別評価を数値化すると以下ようになります。

④:5点 A:4点 B:3点 C:2点 C:1点

② 各教科の学習状況の評定

1～5の評定における達成の度合いは、以下の通りです。

5段階評定
(絶対評価)

段階	達成の度合い
5	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
4	「十分満足できる」状況と判断されるもの
3	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
2	「努力を要する」状況と判断されるもの
1	「一層努力を要する」状況と判断されるもの

評定の導き出し方は、以下の表の通りです。観点別評価の数値をもとにしています。

組み合わせ	合計点	評定	組み合わせ	合計点	評定	組み合わせ	合計点	評定
④④④	15	5	④AC	10	3	④CC	7	2
④④A	14	5	④BC	10	3	A④C	7	2
④④B	13	5	AA④	10	3	BBC	7	2
④AA	13	5	ABB	10	3	B④C	7	2
④A④	12	4	④BC	9	3	ACC	6	2
④AB	12	4	A④C	9	3	B④C	6	2
AAA	12	4	AAC	9	3	④④C	6	2
④A④	11	4	AB④	9	3	BCC	5	2
④A④	11	4	BBB	9	3	④④C	5	2
④BB	11	4	A④C	8	3	④CC	4	1
AAB	11	4	ABC	8	3	CCC	3	1
			A④C	8	3			
			BB④	8	3			

＜通知票・指導要録における注意点＞

「AAA」を例に記述します。

通知票・指導要録では④④④、④④A、④AA、AAAは、4パターンともすべてAAAと記述されます。したがって、AAAでも5となる場合と、4となる場合が存在します。AAAで5となっていたら、④④④、④④A、④AAのいずれかであったということです。そしてAAAで4となっていたら、④は無くAAAであったということになります。

AAA以外については、右の表を御参照ください。

通知票・指導要録の表記	評価と組み合わせ
AAA	5 … ④④④, ④④A, ④AA 4 … AAA
AAB	5 … ④④B 4 … ④AB, AAB
AAC	4 … ④④C, ④AC, ④A④ 3 … ④AC, AA④, AAC
ABB	4 … ④BB 3 … ABB
ACC	3 … ④C④C, ④CC, A④C 2 … ④CC, A④C, ACC
BBC	3 … BB④ 2 … BBC
CCC	2 … C④C④, C④C 1 … C④C, CCC

3

総合的な学習の時間の評価

目標	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 (2)実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3)探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。		
学習状況	観点項目別評価に基づき、意欲や態度・進歩の状況を課題設定から発表までの過程を踏まえて評価し記入します。		
観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等

4

特別活動の記録

校内生活を中心に記録し、事実を記入します。

学級での係 学校行事での実行委員等 奉仕的活動等 所属の委員会
所属の部活動（役職） 生徒会役員 大会・展覧会等の表彰 その他

事実
記録

2 行動について

学校生活の様子をとらえ、下記の項目の趣旨にしたがって、学期ごとに絶対評価をします。

内容を十分達成している場合にのみ、○をつけます。

基本的な生活習慣	礼儀正しく、規律を守り、調和のとれた生活を送ることができる。
健康・体力の向上	心身の健康の保持増進と体力の向上に努めている。
自主・自律	自ら考え、正しく判断し、自主的に行動できる。
責任感	自分の役割を自覚して、誠実に取り組むことができる。
創意工夫	探究心をもち、進んで新しい考えや方法を見つけようとする。
思いやり・協力	思いやりと感謝の心をもち、協力してよりよく生きていこうとする。
生命尊重・自然愛護	自然を愛護し、自他の生命を尊重することができる。
勤労・奉仕	勤労や社会奉仕の尊さを知り、進んで係の仕事や奉仕活動を行うことができる。
公正・公平	他者の意見に左右されることなく、公正・公平な態度をとることができる。
公共心・公德心	きまりを守り、公共物を大切にします。

3 出欠席等の記録

◇学期毎に、出席・欠席・遅刻・早退等をお知らせします。

4 総合所見

※学校から
保護者へ

◇学級担任から「学習全体を通して見られる特徴」「学習の進歩が著しい教科とその状況」「学校生活全体から見られる特徴」「行動の状況の進歩が著しい状況」等、家庭に連絡したいこと、担任からの励まし・願い、個人の成長などを記入します。

5 通信欄

※保護者から学校へ

◇家庭での生活の様子や、学校へ連絡したいこと、学校への要望などをお書きください。

6 道徳

◇特別の教科道徳の評価について、生徒一人一人の良い点や可能性、進歩の状況について、文章で評価します。

【その他】新型コロナウイルス感染拡大防止等の影響により、予定されていた学習活動ができずに評価不能（／）となる観点がある場合があります。御了承ください。